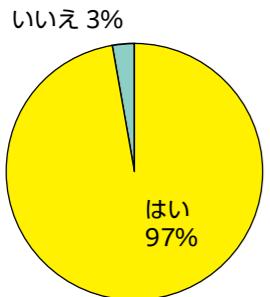


親から聞いた福井の戦争の話 ③

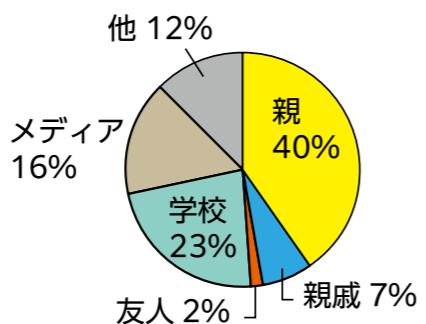
※ここに掲載する、作品、写真、図版及び文章などは下出若菜に帰属します。許諾無しに使用することはできません。



福井空襲を知っていますか？



福井空襲を、何で知りましたか？



倒壊した家の下で、助けを求める人々が多くいた。

(男性 70代 福井市)

私が聞いた福井空襲の話

空襲の恐怖に戦った人々の気持ちが想像できる。防空頭巾を被ったり、窓硝子には貼り紙、防空壕があったところもある。また、バケツには水を用意、ラジオに耳、メガホン、包帯と準備されていたと聞き及ぶ。

とにかく、人が死ぬ、傷つくことが一番怖い。

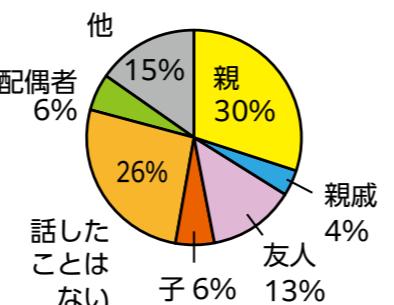
勿論建物も文化財等も壊されたくない。どこの国であっても、あってはならない行為。たとえばスズメバチの襲撃など、『襲』という文字は消えて欲しい。

(男性 70代 当時森田町)

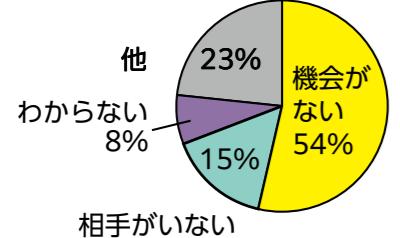
たとえは悪いかもしれないが、太平洋戦争は、隣の家の親父の顔を平手で殴ったら、**自分の家の女子ども老人を含めて殴り倒された**みたいなイメージがある。

(女性 60代 福井市 / 練馬区)

福井空襲について誰かと話しましたか？



話さなかったのはなぜですか？



周りが知らなかったり関心がなくて話題にならなかった。

(女性 40代 越前市)

たまたま近所に話す相手がいなかった。**共感できそうな人がいなかった**日々の忙しさに忘れていた。

(女性 60代 福井市)

太平洋戦争の話は、上から目線で一方的に何度も聞かされたが、間違っても子どもの私が何か尋ねたり意見を言える雰囲気ではなかった。今思えば体験者にしかわからないことを、もっといろいろ聞けば良かったと思うが、そういう空気の中では、同年代の友人達と戦争について話すこともなかった。

日本の戦争の話はタブーだった。

(女性 60代 福井市 / 練馬区)

親から聞いた福井の戦争の話 展

福井市立美術館にて
2024年4月17日(水)から21日(日)まで

福井空襲や大太平洋戦争について私が感じたこと

戦争は悪である
自分達の時代に戦争は起きたくない。
(女性 40代 越前市)

戦争の情報の的確な分析ができていなかった事。
また、正しい情報に基づいた判断ができるなかった事。そのため戦争になった。(男性 60代 鮎江市)

命の重さが軽くなる戦争。
理不尽。昔も今も戦争はなくならない。(男性 50代 福井市)

ウクライナ侵攻を、どう感じましたか？

人災である。いかなる理由があろうと、**戦争は人災である。**
2000年代に、国と国が殺しあうことが理解できない。(男性 70代 福井市)

第二次世界大戦から学んでいないのだと。**ロシアは戦勝国**
だからわからないのかなと。(女性 60代 津市)

理不尽を感じる。
現代はテレビでその有様を見ることで
母や祖母の体験とは違うであろう、戦地の様子を見る。攻撃の凄まじさや被害を見ることで、戦争の怖さや痛々しさを感じ、心が痛い。(女性 60代 福井市)

なぜ今、ロシアがウクライナを攻めたのかが、わからなかった。ロシアの侵略で、**市民や子どもたちが犠牲になっているのを知ると辛い。**
早く戦争が終わって欲しい。国連がプーチンを止めるように何とかしてほしい。(女性 50代 坂井市)

2022年という現代
社会において、ロシアの行為を世界中がストップさせることができないのは、残念だと思っています。2023年には終結してほしい。(女性 60代 福井市)

恐ロシアと憂暗いナ
の愚かな戦争。どれだけの人々が亡くなったり、負傷していることか。皆一度限りの人生である。両成敗と言うが、特にロシア側が侵攻を止めてほしい。ウクライナにはロシア本土を蝕む野心は無いと思う。早く平和がきてほしい。(男性 70代 当時森田町)

南条郡今庄町宇津尾(当時)の母(昭和10年3月生)から何度も聞かされたけれど、ググっても何も出てこない戦時中のお話をふたつ。

学校のお弁当には、白米を入れてはいけなかった

全戸農家で自給自足出来ていて、ひもじいという思いを経験したことのない母でしたが、国民皆が苦労しているのだから、学校では雑穀米を食べましょう、ということになった。

母の母親(私の祖母)は、毎朝かまどで、ご飯を2種類炊いた。片方は米だけの白飯。片方は娘の弁当箱に入れる雑穀米。当然、雑穀米は美味しい。しかし昼食時、教師が見回りにきたらしく、雑穀米は絶対だったようです。

母は、今ごろ家ではみんな白飯を食べている、と恨めしく思ながら弁当を食べていたと。

食べ物の恨みは強いので、この話は、かなり何度も聞かされました。

でも他の農村でそういう話を聞いたことがないので、国策ではなく、地方役人のローカルルールだったのか?

学校の夏制服をよもぎで緑色に染めた

敦賀空襲が7月12日。

よもぎで緑に染めたというなら、夏制服のはず。機銃掃射に合ったとき、草むらに逃げれば目立たない、という理由だったらしい。よもぎで染めると落ちないと母は言っていました。

しかし、これも戦時物ドラマやアニメで見たこともない話で、やはり地方役人

が知恵を絞った「何かやってます」というための何かだったのか。

他の親族に確認したことが無く、母親より歳上の親戚は皆鬼籍に入ってしまったので、今となっては謎です。

あのものすごい山奥の集落にアメリカ空軍が来るとは思えないし、それに機銃掃射は低空飛行の目視なので、制服の上半身を緑色にしたところで効果はなかったと思うのですが、竹槍や薙刀の練習をした国ですから、まああったのかもしれません。あれは地方役人が精一杯考えて決めたその地方だけのルールだったのか。いまだに謎な話です。

(女性 60代 福井市 / 愛知県)

よもぎ →
(Wikipedia
より)



一般市民と為政者の考えに大きな差があり

為政者の考えを変えるのは難しいと感じるが、市民の声を届けることで何か変わるかも? (女性 60代 鮎江市)

戦う。

(男性 20代 福井市)

早くウクライナ侵攻が終わって、元通りの生活に戻りたい。

誰が悪いのか、何が悪かったのか、守るために戦うのは良い事なのか、しかし戦わなければ、どうなるのか。動物の世界はどうなのか、弱肉強食の世界。「なぜ」を繰り返して、

はじめのキッカケさえわかれば、

元の世界に戻れるのだろうか? (女性 60代 敦賀市)

直接出来ることはないと思うが、戦争は決して良い事ではないと、これから世代、

子どもたちに伝えていく必要がある。(女性 60代 鮎江市)

避難してきた人々に対する支援、一般の生活者に対する
経済的な援助とか。

(男性 60代 福井市)

日本も他国に侵略させないように、核戦力を持つべきである。



(男性 80代 福井市)

戦争、不平等、孤独を克服し、人間は次の進化に挑戦するべき。

人間は共存協力することで、他の生物とは違う進化を遂げた。

「勝ったものが強いのだ」「勝つこそ正義」という闘争が進化だといまだ考えるなら、滅びはすぐそこまで来ている。でなければ、また新たに何十億年かけて生まれる生命に、望みを託すか? (女性 60代 福井市)



戦争について、何かできることがあると思いますか?



真実を知る努力をすること

操作された情報を私たちは受け入れていると思う。何が本当に何が正しく、何が悪なのか、私たちは深く知る必要がある。

(男性 60代 福井市)



戦争はないにこしたことはない。二次戦以降日本が戦争になっていないことは、何よりも大きい。しかし、侵略を悪しきことと思わない他国は存在するわけで、その時一人一人がどう行動するのか

は、誰にとっても課題だと思う。

(女性 60代 福井市・練馬区)



リビターの作品に、アウシュビッツ収容所の写真を絵の中に塗り込めた作品『ビルケナウ』を豊田美術館で見てきました。

アートの中にメッセージを込める一つの方法例

として優れたものと感じました。アートでもあり、メッセージでもある。

(男性 60代 福井市)



もう少し先には、我が国は、戦争を止めさせる方向に動かなければならないことは間違いない。人類が月だ火星だと言っているこの進んだ時代に、ストップ戦争ができないはずがない。それと

民衆はもっと賢い指導者を送り出すことである。

日本の役割・実力が試される。

(男性 70代 当時森田町)

民間人は、支援金を出すとか正しい情報を知ることぐらいでしょうか。

(女性 60代 福井市)



軍事大国が変わること。

国民が声を上げても簡単に変わらない。何か天変地異が起きて、大きな変革があった時、人類は学習するのかも。

(男性 60代 鮎江市)

両親・親戚・周りの人から聞いた話

①福井空襲直後、心配した父が福井市内の娘夫婦(私の叔母夫婦)のところへ向かう途中、高木町あたりでバッタリと二人に出くわした。おじはバケツとほんの少しの荷物で、空襲が凄かったこと、無事でみんな嬉しかったことはないとよく言っていた。二人は我が家を目指していたのだ。

②私の父は鮎江三十六連隊に入隊したが、技術系で外地に行かなかった。「自分も行かせてください」と申し出たが、お国に残るのも立派な任務、その心意気天晴と宥められたそうだ。

③私の九州の叔父は、海軍の猛者。駆逐艦の甲板にいた兵が荒れ狂う海に放り出され、どうすることもできなかった叔父は部下にボートを降ろさせて救助に向

かった。本艦に戻れの手旗信号を無視して、とうとう救出する。きついお叱りを受けるだろうと思ったら、反対に褒められたとのこと。

④叔父が南方の島(ラバウルか?)夜どこからともなく美しい尺八の音が聞こえてくる。こんな戦の中でもなんと素晴らしい、これぞ武人の嗜み、ワシも習おうと思い訪ねてみたら隊長殿だった。そこで気が合い習うことになった。後年尺八を何本も持ち、来福すると九州の民謡などを披露してくれた。外山流号白山。

⑤空襲警報のサイレンや防空頭巾、灯火管制

⑥B29の爆撃で真っ赤に焼けたトタン等が飛来して、九頭竜川に落ち、ジュッと白い湯気が上がったこと。

⑦B29は石川県を爆撃せず、富山を狙った。何となく富山方面の夜空が赤っぽく明るかったと。

⑧8月15日は玉音放送をラジオで聞き、頭を垂れた家族や近所の人々。

⑨いくばくか経て私の父は福井郊外の田の中に突き刺さっている焼夷弾の残骸を持ち帰り、私が小学校に入った頃までは家にあった。六角柱の鉛筆のような鉄製だった。

⑩奈良県や京都府、そして石川県への空襲はなかったが、それはアメリカも世界的にかけがえのない所だという認識があった。またマッカーサーがかつて京都で過ごしたこともあって、彼の意向が働いていたと聞いている。

(男性 70代 当時森田町)



←長岡空襲で使用されたM69弾。新潟県立歴史博物館の展示。(Wikipedia より)

人の心には、善と悪の心がある

と思います。日頃一人の個人としても、そのような心があると思います。

まして戦争となると、国と国との戦いです。いろいろと積み重なった思いがあり、戦争に発展すると思います。自分の国に利益になれば戦争を正当化します。『エゴ』からくるものだと思います。戦争を無くすのは、人類の永遠の課題だと思います。

戦争がないことを願うだけです。

(男性 70代 福井市)

「親から聞いた福井の戦争の話展」を2024年4月に福井市立美術館で開催します。そこで皆様から頂いたアンケートを展示いたします。

アンケートや福井空襲、戦争にまつわる記憶、それを聞いた時の思いを募集しています。ご希望の方の方は、事務局までご連絡ください。感想・ご意見もお待ちしています。(S)



※ここに掲載する、作品、写真、図版及び文章などは下出若菜に帰属します。許諾無しに使用することはできません。

親から聞いた福井の戦争の話③

2023年11月27日発行 発行責任者 下出 若菜

事務局 〒918-8003 福井県福井市毛矢1-1-12 ビブレ新橋501

mail : dream_wakana@icloud.com



facebook